

森あや子 ニュース

Ayako Mori News

秋²⁰¹⁵号

発行:福岡市議会議員 森あや子
〒813-0044 福岡市東区千早5-17-18 TKビル2号館1階
TEL.092-662-5077 / FAX.092-662-5097
<http://ayako966.blog.fc2.com/>



想定が甘すぎる福岡市の原子力災害対策!

“被ばくやむなし”の計画 屋内退避中心、安定ヨウ素剤の数は足らず配布も間に合わない

※本市の安定ヨウ素剤備蓄は、50km圏内の市民約397,000人分(総人口1/4)しかありません。

国の原子力災害対策指針は原発から30km圏内の整備となっていますが、放射性物質は30km圏内でびったり止まる訳ではありません。本市は玄海原発から約37~60kmに位置し、偏西風の影響もあります。事故が起これば帰還困難区域となっていた飯館村と同じ、もしくは被害がもっと拡大する恐れがあります。

しかし市の原子力災害対策は、50km圏内の市民用に安定ヨウ素剤の備蓄を進めてはいますが、配布方法や避難経路、複合災害に対することなど、実際に起こる被害に対して現実的なものではなく、非常に危機感を覚えます。

○規模が大きい都市こそしっかりした原子力災害対策が必要!

福岡県の高浜原発から約50kmの位置にある兵庫県篠山市は、国や県が原子力災害対策計画を策定していない中、放射線治療専門医や市民らで第三者委員会をつくり、市が単独でできることを提言としてまとめました。篠山市は安定ヨウ素剤を全市民約4万3千人と観光客の計5万人分を購入備蓄。市民への説明や

問診を行ったうえで、この秋から希望する市民に事前配布を始めます。ほかにも、自主避難や屋内退避の勧告体制の整備、避難誘導の計画策定などを進めています。同市は原発立地県ではなく、原発からの距離も福岡市とほぼ同じ。本気で市民を守ろうと思えば、市独自でここまでできるのです。

○原発に頼らない社会づくりを!

本市も原子力災害対策に責任を持って充実させていく必要がありますが、そのためには多額な予算と労力がかかります。だからこそ同時に、一日も早い廃炉を目指すことが必要だと訴えました。

高島市長は原発について「エネルギー政策の枠組み

の中で国が責任をもって判断すべきもの」とし、「原子力発電所の安全確保や情報公開の徹底については国や事業者への要望を行うとともに、原子力災害対策の充実努める」との答弁でしたが、実際に事故が起こって被害を受けるのはここで暮らしている市民自身です。

災害対策の充実と原発に頼らない社会づくりへの提案を、これからも発信し続けます!!



高度成長期時代はとっくに終わっている!

~優先すべきは何か、市民と一緒に考えていくとき~

人口減少へと進むこれからの社会は、優先すべきものは何かを市民と一緒に考えていく必要があります。人工島への都市高延伸について、渋滞緩和のために、高速道路延伸以外どんな方策があるか調査検討を行ったのかの問に対し「何もしていない」とのことでした。一方で本市は配水管の補修改善は毎年1%しかできていません。「あったらいいな」の便利なものに多額の予算をかけるのか、市民のいのちや暮らしに欠かせない事業に予算をかけるのか、今の時代にあった判断が重要です。